

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表	
-------------------------	--

法 人 名	(株) ニチイ学館					法人・事業所 の特徴	その方の暮らし生活を支援する在宅系介護サービス（居宅介護支援事業所・訪問介護事業所）、居住系介護サービス（小規模型居宅介護、グループホーム）のトータルサービスを展開しています。 その中でも小規模型居宅介護の特性として、通所・宿泊・訪問サービスを柔軟に組み合わせ提供をしながら、在宅生活の支援はもちろん、ご家族の心身の負担軽減、急な宿泊、施設入居までのサポートを行っています。 地域のボランティアの方の受け入れ、畑にて家庭菜園、地域のとの関わりを常に持ち、協同しながらサービス提供に努めています。										
代 表 者	代表取締役社長 中川 創太																
事業所名	ニチイケアセンター苫小牧																
管 理 者	久田 恵子																
実 施 日	令和	8	年	3	月		5	日									
報 告 日	令和	8	年	3	月		17	日									
実施日の 出 席 者	苫小牧市職員		地域包括支援 センター職員		町内会		民生委員		利用者家族		その他		事業所職員		合計		
	1 人		1 人		3 人		0 人		0 人		1 人		14 人		20 人		

前回の目標		実際に取り組んだ内容・結果
仕事や家庭・育児や家族介護等と両立しながら働ける協力体制を作り、働き甲斐のある職場環境作りを行う。職員採用3名、退職者を無しを目指す		①一緒に働く仲間が紹介できる環境を築き、人材の充足を図り3名の採用ができた。 ②人間関係に悩まずに働き易く、しっかりと休日取得が出来、疲労を残さず働けるような勤務体制のシフト作成を行った。 ③家族等の介護休暇取得、産休・育児休暇取得、保育園等の休園や学校の休校等に伴う休み対応、全職員有休5日以上、夏季休暇3日、毎月シフト作成前に休みの希望休を導入継続し取得を行うことが出来るようになった。
取り組み期間		
津波・地震際を伴う訓練、全職員が防火時に慌てず、混乱することなく行動出来るようにする。町内会、地域での災害訓練にも参加し、慌てずに行動できる。		①年2回以上の防火訓練の実施と職員研修の実施を定期的に行った。 ②全職員が防火訓練を実施・参加出来るように計画し不安を取り除けるように訓練の実施を行った。 ③地域の災害訓練に参加し、地域との連携の継続を行い、地域訓練へ継続的に参加ができた ④BCPの計画策定を行い全職員が把握するように努め、計画の定期的な具体的見直しを行った。
取り組み期間		
感染症や緊急時の研修を継続し、混乱することなく全職員が把握し行動できるようにする。		①緊急時の対応の研修と整備を行い、全職員把握に努める ②感染症の研修を常に行いながら、感染予防に努め、全職員が自主的にに対応できるように出来るようにする。 ③BCPの計画策定と看護師が主導し全職員が把握できるように研修と行った。
取り組み期間		
本人・御家族の思いを汲み取りながら、住み慣れた自宅での生活が継続できるよう、小規模多機能型の特性を生かしたサービス提供を行う		①自宅での生活が継続できるよう分析・提案、サポートを行い、ご本人、御家族を支えられるように柔軟なサービス対応が行えるよう相談しやすい関係づくりを継続ができた。 ②その方が住んでおられる地域の地域包括支援センター、地域の方々との連携を図り、御本人の支援、御家族のサポートも心がけるように努め、柔軟な対応、他関係機関との関係構築の継続ができた。
取り組み期間		
今回の目標		取組み内容(予定)
仕事や家庭・育児や家族介護等と両立しながら働ける協力体制を作り、働き甲斐のある職場環境作りを行う。職員採用3名、退職者を無しを目指す		①一緒に働く仲間が紹介できる環境を築き、人材の充足を図り3名の採用を出来るようにする ②人間関係に悩まずに働き易く、しっかりと休日取得が出来、疲労を残さず働けるような勤務体制のシフト作成を心がける ③家族等の介護休暇取得、産休・育児休暇取得、保育園等の休園や学校の休校等に伴う休み対応、全職員有休5日以上、夏季休暇3日、毎月シフト作成前に休みの希望休を導入継続し取得を行うことが出来るようにする。
取り組み期間	2026/4/1～2027/3/31	
津波・地震際を伴う訓練、全職員が防火時に慌てず、混乱することなく行動出来るようにする。町内会、地域での災害訓練にも参加し、慌てずに行動できる。		①年2回以上の防火訓練の実施と職員研修の実施を定期的に行う。 ②全職員が防火訓練を実施・参加出来るように計画し不安を取り除けるように訓練する。 ③地域の災害訓練に参加し、地域との連携の継続を行い、地域訓練へ継続的に参加する。 ④BCPの計画策定を行い全職員が把握するように努め、計画の定期的な具体的見直しを行う。
取り組み期間	2026/4/1～2027/3/31	
感染症や緊急時の研修を継続し、混乱することなく全職員が把握し行動できるようにする。		①緊急時の対応の研修と整備を行い、全職員把握に努める ②感染症の研修を常に行いながら、感染予防に努め、全職員が自主的にに対応できるように出来るようにする。 ③BCPの計画策定と看護師が主導し全職員が把握できるように努める。
取り組み期間	2026/4/1～2027/3/31	
本人・御家族の思いを汲み取りながら、住み慣れた自宅での生活が継続できるよう、小規模多機能型の特性を生かしたサービス提供を行う		①自宅での生活が継続できるよう分析・提案、サポートを行い、ご本人、ご家族を支えられるように柔軟なサービス対応が行えるよう相談しやすい関係づくりを継続。 ②その方が住んでおられる地域の地域包括支援センター、地域の方々との連携を図り、御本人の支援、御家族のサポートも心がけるように努め、柔軟な対応、他関係機関との関係構築の継続。 ③拠点内のイベントを充実させ、地域の方の来訪の機会をつくる。困りごとがあった際に、来訪しやすい環境をつくる。
取り組み期間	2026/4/1～2027/3/31	

【設問の評価について】

A:十分にできている B:ほぼできている C:あまりできていない D:ほとんどできていない

【地域かかわりシート評価結果】

設問		評価	意見等
1	事業所自己評価は、事業所のスタッフの意見を反映し実施されていることが確認できましたか？	A	
2	前回の改善目標に対して、具体的な取り組みが行われていましたか？	A	災害発生時の対応は初動が大切です。訓練体制の確認や見直しなどの取り組みを期待します。防災燻煙やカムチャッカ半島地震の津波警報発令青森県東方沖地震などの災害時の職員の動きや意見を反映させ随時計画の見直しを行っていた
3	今回の自己評価に対する改善目標が1つ以上立てられていますか？また、改善目標の内容について事業所から説明がありましたか？ (改善目標がない場合は、自己評価内容と比べて目標が妥当であるかを評価します)	A	
4	事業所内や周囲の環境は清潔な状態が保たれていますか？ (不快な音や臭いなどはありませんか？もしくは、それについて話を聞いたことはありませんか？)	A	階段の踊り場に段ボールが置いていることがある。清潔に保たれている。
5	事業所は居心地のよい空間になるよう工夫されていますか？ (明るさ、装飾、生活音等に配慮がされていますか？)	A	LED, 他空調も新しくなりよい。
6	事業所は家族や地域の方が訪問しやすい（明るく親しみやすい）雰囲気になっていますか？ 訪問・連絡時の対応等が適切ですか？	A	職員はあいさつや声掛けをしており、来られた方を受け入れようとする意識が常にありうように感じた
7	運営推進会議では、事業所の取組みが解りやすく説明されていますか？ (資料等はわかりやすいものになっていますか？)	A	資料にページを附番したり資料自体にナンバーを付けると参加者も現在どの資料に基づいて説明をされているのかわかったかもしれません
8	運営推進会議で出た意見等を改善につなげていると思いますか？	A	
9	事業所の防災訓練に参加したことがありますか？ または、防災訓練について結果報告等を受けたことがありますか？	A	決められた人数の中で最大限行っていると思います。開催報告をしっかり受けています。
10	事業所は、地域の防災訓練に参加・参画していますか？ または、参加・参画していることの報告等を受けたことがありますか？	A	毎回反省会を行い少しでも前回より良くなるよう努力をしている。地域の防災訓練にも職員だけではなく利用者も一緒に参加されました
11	事業所のスタッフ及び利用者は、地域の行事やイベントに参加していますか？ または、参加状況について報告等を受けたことがありますか？	A	避難訓練、夏まつり、秋の旅行など車いすを利用し来てもらい夏祭りでは踊りに参加し楽しまれています。包括の行事にも参加していただいています。
12	何か困りごとや相談ごとがあった場合に、事業所は相談しやすい場所になっていますか？	B	相談できる場所づくりをこれからもお願いします。町内会の防災訓練にも利用者、職員の参加もしていただいています

【その他意見等】

認知症普及、啓発のキャラバンメイトの活動について地域の小中学校等の交流は重要と考えています。職員の協力も今後もお願いいたします。今後も地域の方や地域包括支援センターとも良好な関係をもって地域のよりどころとして事業運営をされることを期待しています。災害時、垂直避難をするにエレベーターが必要となっている。しかしエレベーターが止まってしまった時に車いすユーザーや自力で上がることが難しい方は職員が抱えるなどが考えられ、避難する方法について考える必要がある。地域との交流などは自分たちで主催したお祭りで声をかけたり、様々な行事に参加したり、地域に根差した施設としていこうとする姿勢は評価できる